

児童票（保育に関する記録）※ 0・1・2 歳児

ふりがな		保育の過程と子どもの育ちに関する事項									
氏名			年度	年度	年度						
			(個人の重点)	(個人の重点)	(個人の重点)						
生年月日	年 月 日										
性別			(保育の展開と子どもの育ち)	(保育の展開と子どもの育ち)	(保育の展開と子どもの育ち)						
乳児の保育に関する ねらい (発達を捉える視点)		1 歳以上 3 歳未満児の保育に 関するねらい (発達を捉える視点)									
健 やか に 伸 び 伸 び と 育 つ	身体感覚が育ち、快適な 環境に心地よさを感じる。	健 康	明るく伸び伸びと生活 し、自分から体を動かすこ とを楽しむ。								
	伸び伸びと体を動かし、 はう、歩くなどの運動をし ようとする。		自分の体を十分に動かし、 様々な動きをしようとする。								
	食事、睡眠等の生活の リズムの感覚が芽生える。		健康、安全な生活に必要な 習慣に気づき、自分でして みようとする気持ちが育つ。								
身 近 な 人 と 気 持 ち が 通 じ 合 う	安心できる関係の下で、 身近な人と共に過ごす喜び を感じる。	人 間 関 係	保育所での生活を楽し み、身近な人と関わる心地 よさを感じる。								
	体の動きや表情、発声等 により、保育士等と気持ち を合わせようとする。		周囲の子ども等への興味 や関心が高まり、関わりを もとうとする。								
	身近な人と親しみ、関わ りを深め、愛情や信頼感が 芽生える。		保育所の生活の仕方に慣 れ、きまりの大切さに気付 く。								
身 近 な も の と 関 わ り 感 性 が 育 つ	身の回りのものに親し み、様々なものに興味や関 心をもつ。	環 境	身近な環境に親しみ、触 れ合う中で、様々なものに 興味や関心をもつ。								
	見る、触れる、探索する など、身近な環境に自分か ら関わろうとする。		様々なものに関わる中 で、発見を楽しんだり、考 えたりしようとする。								
	身体の高感覚による認識 が豊かになり、表情や手足、 体の動き等で表現する。		見る、聞く、触るなどの 経験を通して、感覚の働き を豊かにする。								
		言 葉	言葉遊びや言葉で表現す る楽しさを感じる。								
	人の言葉や話などを聞 き、自分でも思ったことを 伝えようとする。										
	絵本や物語等に親しむと ともに、言葉のやり取りを 通じて身近な人と気持ちを 通わせる。										
		表 現	身体の高感覚の経験を豊 かにし、様々な感覚を味わう。								
	感じたことや考えたこと などを自分なりに表現しよ うとする。										
	生活や遊びの様々な体験 を通して、イメージや感性 が豊かになる。										
			(特に配慮すべき事項)			(特に配慮すべき事項)	(特に配慮すべき事項)				

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの保育について特に重視してきた点を記入すること。

*保育の展開と子どもの育ち：1年間の保育の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された乳児保育の各視点及び1歳以上3歳未満児の各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるものを、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、翌年度の保育に必要なと考えられる配慮事項等について記入すること。

*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、翌年度の保育において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

児童票（保育に関する記録）※ 3・4 歳児

ふりがな			保育の過程と子どもの育ちに関する事項	
氏名			年度	年度
			(年度の重点)	(年度の重点)
生年月日	年 月 日			
性別			(個人の重点)	(個人の重点)
ねらい (発達を捉える視点)				
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。		(保育の展開と子どもの育ち)	(保育の展開と子どもの育ち)
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。			
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。			
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。			
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。			
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。			
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。			
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。			
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。			
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。			
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。			
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。			
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。			
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。			
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。			
			(特に配慮すべき事項)	(特に配慮すべき事項)

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

*年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

*保育の展開と子どもの育ち：1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、翌年度の保育に必要なと考えられる配慮事項等について記入すること。

*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、翌年度の保育において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

児童票（最終年度の保育に関する記録）

ふりがな			保育の過程と子どもの育ちに関する事項	最終年度に至るまでの育ちに関する事項
氏名			年度	
			(最終年度の重点)	
生年月日	年 月 日			
性別			(個人の重点)	
(ねらい (発達を捉える視点))				
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。		(保育の展開と子どもの育ち)	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。			
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。			
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。			
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。			
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。			
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。			
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。			
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。			
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。			
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。			
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。			
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。		(特に配慮すべき事項)	
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。			
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。			

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。

健康な心と体
自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり
思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

*最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

*保育の展開と子どもの育ち：最終年度の1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

○最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。